
悲しい言葉

鯨大都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲しい言葉

【Nコード】

N4982D

【作者名】

鯨大都

【あらすじ】

私はあなたとどうしたいのだろう。

(前書き)

詩です。

突き刺さる言葉。

ペンは剣よりも強く、

涙は血よりも濃いのだろう。

あなたの一言が私を貫く。

突き刺さる言葉。

悲しい言葉。

いちいち振り回されてたまらない。

そう思い自ら腕を切り落としたのだ。

私の腕を右手にだらんと持ち、

支えを失った私の左手の重みがあなたに移る。

不思議そうなあなたの顔。

私の肩から流れる涙。

私は、あなたの右手のそれに目をやり

そっちからは涙はでないのだなあ、

などと思う。

「痛くないの？」

「痛いよ、心が」

「それ、臭い」

笑って言うあなたの口元が魅力的。

あなたは腕の切り口を一瞥し、

赤ん坊をゆりかごにのせるように優しくそれを、

屑籠にすてる。

振り返り微笑。

私の目はあなたの口元に引きずられる。
魅力的。

そしてあなたは私の右手を左手で握る。

あなたの手がいつもより少し汗ばんでいて私は焦る。
並んで立つと下に見えるあなたの顔。
口元は笑っている、のか。

「
」

あなたの一言が私を貫く。
突き刺さる言葉。

悲しい言葉。

悲しいのは誰。

私かあなたか両方か。

笑顔のあなたはとても。

とても、なんだろう。

私に分かるわけもなく。

私は、

もうどうしようもないな、
と思う。

思い、あなたの左手を強く握り返し部屋を出る。

今日も快晴。

左腕を失った私は少し右側に傾いてしまいが、

そちらにはあなたがいるから大丈夫だろう。

ちらと見えた屑籠の中、私の左手が親指を立てていたことが笑えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4982d/>

悲しい言葉

2010年11月23日03時17分発行